



トライを挙げ、歓喜の表情



円陣を組み、心を一つに



軽やかなステップを踏み、相手陣内へ切り込む



第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会

大津緑洋高等学校ラグビー部 全国への挑戦

～ラグビーを通じたまちづくり～

後半13分、ゴール前5メートルからFW梶田選手が持ち込み、反撃のトライ



労いの握手



勇猛果敢にディフェンス



スタンドから熱い声援

5年ぶり29回目の花園出場

昨年12月27日から東大阪市花園ラグビー場で開催された「第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会」に、大津緑洋高等学校が山口県代表として出場しました。

同日、新潟県代表・新潟県立新潟工業高等学校との初戦。7対38で敗れ、惜しくも初戦突破とはなりませんでしたが、低く刺さるタックルやバックスの展開力など全国大会で通用する部分もあり、古豪復活への手応えを感じさせました。

開会式で力強く選手宣誓

試合に先立って開催された開会式には、47都道府県から勝ち上がってきた51チームが出場。応援に駆けつけた市民や市出身者らがスタンドから見守る中、大津緑洋高校ラグビー部が堂々と胸を張った入場行進を披露しました。

また、選手宣誓は同校の末次遥人主将が務め、「新たな聖地、花園ラグビー場において、世界中の方々に感動を届けます」と力強く宣誓しました。

白熱した試合展開

初戦の相手、新潟工業高校は大型フォワードを擁し、15年連続43回目の出場という常連校。体格で劣る大津緑洋は、低く刺さるタックルで対応し、試合序盤は互角の勝負を繰り広げます。しかし、総合力で上回る新潟工業にじわじわ押され出し、連続トライを許して前半を0対19で折り返します。後半にフォワード梶田侑志選手のトライで一矢報いるも、善戦及ばず7対38でノーサイドを迎えました。

試合終了後、スタンド前へあいさつに訪れた選手たちに、温かい労いの言葉と拍手が送られていました。

古豪復活に向けて

試合を終え、中野泰幸監督は「相手のディフェンスがよく、早く大きな展開をさせてもらえなかった。選手にはよく頑張ったと声をかけます。全国との差を埋めていけるよう一層頑張っていきたい」と述べました。古豪復活に向け、全国大会の経験を活かした、新チームの活躍が期待されます。

花園1勝を目標に、新チーム始動



大津緑洋高等学校ラグビー部



岩本圭史コーチ 中野泰幸監督

全国大会では、フォワードの体格差が約10キロも重い相手に対して、決して臆することなく、伝統の低く刺さるタックルを選手一人ひとりがよくやってくれました。フィジカルやスキルの中で、まだまだ全国のレベルと比べると差があり、けが人も多い中、本来の実力を十分に発揮できたゲームではなかったかもしれません。しかし、個々を見れば、バックスの突破力やフォワードの体を張ったタックルは、選手たちがこれまでの伝統や魂を確実に引き継いでいると感じました。

3年生が抜けた穴は1年生が埋めていかないといけないのが高校スポーツ界です。新チームはまったく違うチームになり、



末次遥人主将

選手宣誓全文

宣誓、ラグビーを愛し、ラグビーにおいて育てられた私たちは、この新たな聖地、花園ラグビー場において、世界中の方々に感動を届けます。

品位、情熱、結束、規律、尊重、ラグビー憲章に掲げられている5つの言葉を胸に刻み、この地で培われた数多くのドラマと栄光を継承しながら、愛と勇気を持ってプレーします。

苦しいとき、励まし合った仲間たち、地方予選とともに戦ってくれた他校の選手たち、力強くサポートしてくださった地域の方々、支えてくださったすべての方への感謝を胸に一丸と成してトライを目指し、全国のラグーマンと友情のスクラムを組むことで、最高の舞台でラグビーができる喜びを世界中に配信することを誓います。

平成30年12月27日、選手代表、山口県立大津緑洋高等学校ラグビー部主将、末次遥人

これからラグビーの基礎を指導していくこととなります。毎年リセットされるところがチームづくりの難しさです。

新チームが始動し、花園で優勝するという目標が定められました。それに向け、短期目標を定めながら一つずつ課題をクリアし、目標を達成できるように指導していきます。

ラグビー部として活動するにあたり、保護者会やOB会など日頃からご支援をいただき、大変活動しやすい環境になっています。また、全国大会出場の際は市民の皆さんから多大な支援や温かい声援をいただき、感謝しております。今後も市民の皆さんの期待に応えられるよう頑張ります。(談：中野泰幸監督)



出典：山口県ラグビー60年史

高校ラグビー 全国大会への 挑戦の歴史

旧水産高校

昭和26年度、ラグビー部が発足。昭和28年度に創部3年目に於いて早くも第8回国体に出場し、その後も9、10回大会と連続出場するものの、全国高等学校ラグビーフットボール大会の県決勝ではあと一歩で敗れ、無念の涙をのみました。

創部6年目は戦力も一段と充実し、昭和31年度の第11回国体に出場。その余勢をかってついに第36回全国大会に初出場を果たすと、その後、38回、39回、40回大会と3年連続の出場を果たします。

その後、しばらく全国大会への出場は途切れれますが、昭和48

年度、第53回全国大会に13年ぶり5回目の出場を果たすと、続く54回、55回、57回大会と出場を果たし、水産高校ラグビー部の第二の黄金期を築きました。

旧大津高校

昭和39年度、ラグビー部が発足。創部3年目の昭和41年度には中国大会へ初出場。昭和47年度、ついに全国大会に県代表として初出場し、2回戦まで勝ち進みます。その後、昭和55年度、第60回大会に2回目の全国大会出場を果たします。

連続出場への第一歩となるのは昭和57年度の第62回大会からで、平成2年度の第70回大会まで9年連続出場を果たし、大津高校の常勝時代を築きます。

中でも昭和58年度の第63回大会では、後に日本代表となった中島修二さんや神戸製鋼で活躍した藪木宏之さんを擁し、1



昭和59年1月号の広報ゆやで花園出場を紹介

回戦で黒沢尻工高を33対0、2回戦は熊谷工高を16対6で退け、続く準々決勝では大阪工大附属高と対戦。前半は4対10とリードを許すものの、後半に素晴らしいタックルとグラウンドを縦横無尽に走る攻撃で17対13と逆転勝利を収め、ベスト4入り。準決勝では大分舞鶴高に6対13で敗れたものの、全国に「大津旋風」を巻き起こしました。

大津緑洋高校

平成23年4月、大津高校と水産高校、日置農業高校が統合し、大津緑洋高校が開校しました。

開校3年目となる平成25年度、第93回大会に3校統合後初めて、全国大会へ出場。12年ぶりの出場に地元も大いに湧き、ラグビーワールドカップキャンパス地招致への大きな弾みとなりました。そして平成30年度、旧大津高・旧水産高時代を含め29回目の出場を果たしたのです。



古豪復活への 期待の声



田邊 正春さん
(旧水産高
ラグビー部OB)

チームスローガン「走れ・タツクル」を実践し、5年ぶり29回目の花園出場、「古豪復帰」を果たしたことはOB一同大変嬉しく思います。今後も水産高・大津高ラグビー部の伝統を継承し、感謝の気持ちを忘れず、日々精進し、「古豪」から「強豪」と称されるチームになることを期待します。



内田 正洋さん
(旧大津高
ラグビー部OB)

新生花園での初宣誓はとても良かった。日本ラグビーが掲げる「One for All, All for One」の体現には、個が負けない精神が必要だ。これは物語「三銃士」にある言葉。負けない個の集まり、それが負けないチームを作る。勝つんじゃない負けないチームはカッコいいぞ。



山本 孝徳さん
(関西山口県同郷会
スポーツ支援委員長)

第98回全国高校ラグビー29回目の出場おめでとう。私は水産高校を昭和40年に卒業しました。5年前の1回戦勝利と今回の立派な選手宣誓には涙が出ました。学校、生徒はもちろん、指導者、保護者やOBの皆さん、ラグビーファン、我々卒業生一同、遠くから応援しております。今年も待つちよるぞ。



長尾 英樹さん
(大津緑洋高ラグ
ビー部保護者会)

花園の地でプレーするということもららの想いが叶って良かったです。残念ながら一回戦で敗れましたが、頑張っている姿を見て保護者会として嬉しく思います。5年ぶりの出場ということで、新生大津緑洋高校としての新たな歴史の一步となれば、来年、再来年も続くようこれから応援していきます。



中野 伸彦さん
(大津緑洋高ラグ
ビー部1期生)

今年日本全体がラグビーで盛り上がる年です。皆さんにはその一員としてカナダ代表をサポートし、強豪チームの雰囲気、姿勢、調整など、ナショナルチームから多くのことを吸収してください。感謝の気持ちを大切に「古豪・大津」ではなく、「強豪・大津緑洋」に向けて、新しい時代をつくり上げてください。



盛り上がり ワールドカップ、 そして世界へ

今年9月には、ラグビーワールドカップ2019™が開催され、長門市はカナダ代表チームの公認キャンプ地に決まっています。

長門市では平成27年12月、「長門市世界大会等キャンプ招致基本計画」を策定し、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックなど国際大会のキャンプ招致に向けて、推進体制の構築や施設整備を始めとした取組を進めてきました。

国際大会のキャンプ招致は、地域経済への波及効果とインバウンドを起爆剤とした新たな観光活力の推進につながるだけで

なく、長門市を全世界に発信し、本市の将来の子どもたちに「世界を知り、世界への夢を抱かせる」絶好の機会となります。

また、ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピックは世界最大級のスポーツの祭典であるとともに、多くの分野で持続的に地域に良い効果をもたらすことが期待されており、こうした効果を「レガシー」として、スポーツ、文化、教育、環境、都市、経済など幅広い分野で未来へ遺すことが重視されています。

ラグビーというスポーツを通じて市民が一体となり、「チームながと」としてまちづくりに取り組み、長門市の次世代に継承していくことが必要です。まずは、大津緑洋高校の活躍で盛り上がったラグビー熱をラグビーワールドカップ2019につなげ、長門市らしい心温まるおもてなし・交流を成功させましょう。

そして、「レガシー」を東京2020オリンピック・パラリンピックやスポーツ合宿誘致などの拡大につなげ、長門市を世界へ発信していきます。